

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援 みんなの基地		
○保護者評価実施期間	令和8年3月2日		～ 令和8年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	令和8年3月2日		～ 令和8年3月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「個」を大切に、丁寧に関わっている。 少人数での関り。	ひとりひとりの個性を大切にしている。 こどもの言動や表現を受け止め、寄り添いながら、推察、考察し、行動している。また、こどもに合わせた対応の引き出しを多く持つように努めている。 こどもの気持ちを置いていかないように関わっている。 こどもの状況に応じて個別に関わっている。	職員みんなが「こどもまんなか」というブレない軸を持てるよう、また、法人理念、クレドを大切に、内省や自己研鑽に努める(ミーティングや研修)。 こどもの発達や必要性に応じて、小集団活動・個別活動・専門的支援を計画する。
2	保護者さんと子どものことについての情報のやり取りや、お話しする機会がある。	見てほしいこどもの姿を写真で、伝えたいこどもの様子や今後の見通しなどを連絡帳で詳細にお伝えするようにしている。ただし、あまり堅苦しくならないように、見ている保護者さんもお話した時にクスッとなるようなプチエピソードも入れるようにしている。 茶話会など保護者さんとお会いできる少ない機会を大切にしている。 個別面談や参観ではしっかりと時間を確保してたくさんお話しできるようにしている。	今後も保護者さんからのご意見やご要望をお聞きしながら茶話会や家族レクリエーションを企画していく。 個別面談や参観の機会を多く設けていく。
3	多職種がいる。 (保育士・児童指導員・作業療法士) 午前・午後の二部制。併行通園できる。	毎日、支援前と支援後にミーティングを行い、情報共有している。 発達段階に合わせて事業所で過ごす時間の提案も行い、保護者や園からの要望にも可能な限りお応えすることとしている。	次年度はこどもが所属する施設の先生方とも連携できる時間を多く持てるよう、積極的にアプローチしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・連携 こどもが所属する施設の職員と基地の直接支援員の間でお話しする時間が十分に持てない。 職員同士のコミュニケーションがもっと必要。	直接支援の職員が施設の職員と直接話せるのは送迎時のみ。 申し送りノートを導入してみたけど書く時間の確保が厳しい。 職員配置や開催時間、相手側都合もあり開催されるサービス担当者会議や連携会議への参加、それ以外でも情報共有が難しい状況があった。	サービス担当者会議や連携会議の予定を職員全員で共有してミーティングで直接支援員の参加の有無、参加者の決定を行い、可能な限り参加できるように調整する。 直接支援員の方からも連携会議の要望を申出て、送迎時間を調整するなどお話しできる時間をつくる。 事業所内では意識して声を掛け合うようにする。
2	・チーム立案、職員間コミュニケーション 活動プログラム立案が個人に委ねられている。 活動準備など個々に進めている。進捗状況の共有までできていないところがある。	体制的な課題。 フィードバックやコミュニケーション不足。 1チームという職場風土は未熟。	早速4月から、5月の活動計画を職員全員で立案できるように計画的に進め、話し合い、決定していく。 支援後のふりかえりミーティングでは業務や気になることだけでなく、支援の中での「良かったこと」も共有する。 週1回の現場ミーティング内容を確認に留めず深掘りもしてみる。職員同士、意識して声を掛け合うようにする。
3	・地域 地域支援や地域活動といったところできていない。	余裕がなく、地域にまで目を向けられなかった。	活動に地域と関わるような活動を取り入れていく。 (図書館、買い物、通学路、学校見学など) 法人で行っている地域の子育て支援に基地職員も参加する。 卒所したこどもたちの保護者たちが繋がる場所であり続ける。 見学や体験利用受入は継続していく。
4	・ヒヤリハット 今年度は報告数が少なかった。 ミーティングでの共有で終わりがち。	ヒヤリハット報告書作成の判断が個人に委ねられていた。 「これはヒヤリだな」と思うことはよくあるが、報告書作成の時間確保は厳しい。	大きな事故を防ぐためには多くのヒヤリハットを通して対策していくことが望ましいため、報告書作成負担は管理者が請け負い、ミーティングで声を上げやすいようにしてみる。 その際、報告者と記録者を別に記載できるよう書式を修正する。
5	・環境 こどもの特性に応じた個別支援を行う環境設定がしづらいこともある。	事業所内は、ホール、小部屋、隠れ家(カームダウンスペース)といった少ない部屋割りとなっている。	部屋は限られているため環境設定の難しさはあるも、こどもの状況に合わせた部屋分けや、机の配置、座る向きを工夫することで、こども達も順応できており、就学先において必ずしも個別環境の配慮ができるとも限らないため、現在行っている工夫を継続していく。 こどもに環境の選択をしてもらう。こどもの意見を尊重する